



里塚・美しが丘地区は、人口約3万3千人、約1万2千400世帯（平成20年10月現在）と、区内5地区の中で最も人口が多い地区です。また、旧国道36号を中心に発展したこの地区は、古くから住んでいる世帯が多い一方、近年宅地開発が進み、若い世帯も多く、平均年齢40・4歳と、区内で最も若い地区です。

このような幅広い年代の住民で構成されるこの地区では、世代を超えた交流・支え合いが活発に行われています。

里塚・美しが丘地区センター 未来委員会

今年4月の里塚・美しが丘地区センターのオープンに合



わせて「里塚・美しが丘地区センター未来委員会」が設立されました。

同委員会は、同センターが地域住民にとって利用しやすい存在であり続けるために、住民自身が考え提案するほか、同センターを拠点として住民のつながりを深めようと誕生しました。7月13日には、「つながるフェスタ2008」を開催し、踊りや音楽で住民が一つになりました。

子どもを見守る会

子どもたちの安全を地域ぐるみで守ろうと、青少年育成委員会が中心となって活動する「子どもを見守る会」が平成12年7月に設立しました。地域の町内会、幼稚園や小学校、PTA、民生委員・児童委員などで構成する団体で、児童の登下校を見守る活動など、地域で連携した効果的な防犯活動を実践しています。平成19年には、地区防犯パトロール隊を結成し、青色回転灯を搭載したパトロール

カーで、さらにしっかりと子どもたちの安全を見守っています。

美里愛のネットワーク



お年寄りの生活を地域で支えようと、美里町内会にボランティア団体「美里愛のネットワーク」が平成7年9月に設立しました。

一人暮らしのお年寄り宅の草刈りや屋根の雪下ろし、入退院の付き添いなどを行っています。毎年10月には体が不自由な方にも外出を楽しんでもらおうと「ふれあい旅行」を開催。3月にはお年寄りに元気に春を迎えてもらおうと食事を開催しています。いつも頼りにしているボランティアが仮装して余興を披露するなど、笑いがいっぱい楽しいイベントです。

また、バス停留所付近の花壇の設置など、地域への奉仕活動にも力を入れています。

詳細 里塚・美しが丘まちづくりセンター ☎(884)12110

きよた 地名考

第3回 北野

北野は、昔は「厚別北通」と呼ばれていた辺りで、厚別の北に広々と広がる原野という意味で「北野」と名付けられたといわれています。

厚別川流域での開拓は相次ぐ川のはらんで困難を極め、戦前までは農家がわずかに点在する程度でした。

しかし、吉田川用水が引かれ、水田開発が行われるようになってからは目覚ましい発展を遂げ、高台ではジャガイモやヒエなどが栽培され、昭和10年代にはリング栽培も盛んになりました。

その後、昭和38年には八望台団地、昭和45年には北野団地が造成されるなど急激に宅地化が進み、住宅街へと変ぼうを遂げました。



地区の中央には南北に厚別川が流れ、5月はヤマベの稚魚の放流、7月には北野ふれあい夏まつりなどが開催されています。

また、北部には北野緑地や、昔は牧場の一部であった北野たかくら緑地など憩いの空間があり、ゆとりのある閑静な地区です。

